



第 128 号

ISHIKAWA
編集 発行
石川県公立小中学校
教育事務研究会

県事務研マスコットキャラクター

イシカワケンジ

研究大会特集号！

8月24日に津幡町文化センターにて開催された「第64回石川県公立小中学校教育事務研究大会」の特集です。

「学校事務に創造と活力を！～新たなチャレンジ！力強く踏み出そう～」

開会行事

前川明美会長のあいさつの後、金子俊一石川県教育委員会事務局教育次長様よりお言葉をいただきました。お忙しい中にもかかわらずご臨席いただいた金子様に感謝申し上げるとともに「事務をつかさどる」職員として積極的に学校経営に参画していきたいと改めて思いました。



行政説明

「生涯学習について」

石川県教育委員会事務局生涯学習課
社会教育・心の教育グループ

担当課長 小山内 裕之 氏

生涯学習課の主要な事務、事業についてご説明いただきました。そのうちの1つである、親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」では実際の作品を朗読していただき、会場がほっこりした雰囲気に包まれました。グッドマナーキャンペーンやホッとネット大作戦など事務職員、または保護者として関わる事業も多く、子どもたちの健やかな成長のために何ができるかを考える機会となりました。



舞台裏

受付設営前に前川会長が当日の担当者を集め研究大会にかける熱い思いを伝えました。3年ぶりの大会という事もあり、思いが溢れまくってました。



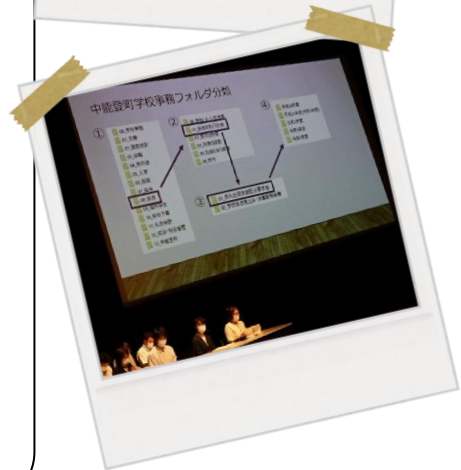
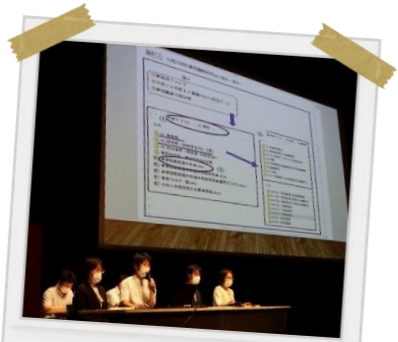
分科会Ⅰ 七尾鹿島

(七尾)「七尾市学校事務の研究の『見える化』と実践」
～「研究を『見える化』し、全員で取り組んだ実践発表です～」

(鹿島)「中能登町学校事務の相互支援体制づくりと業務改善」
～中能登町の事務職員が理想とする『共同学校事務室』について考えてみました～

七尾市学校事務職員研究会は、研究を「見える化」し、強みを活かしながら「事務フォルダの整理・活用」「校務用フォルダの活用及び職員会議案の共有」「学校徴収金マニュアルの作成」に取り組んだ発表でした。それぞれベクトルは事務職員、他職員、他組織(校長会・市教育委員会)に向けられており事務職員だけに留まらず学校全体としての事務負担軽減と適正化につながる内容でした。研究を『見える化』し全員で取り組むことで、事務職員個々のレベルアップ、事務職員同士のつながり、そして学校運営参画についても意識することができたという報告がありました。

鹿島郡学校事務研究部会は「中能登町共同学校事務室」設置に向けての現状と業務の標準化を目指したフォルダ統一化の発表でした。フォルダは教育事務ハンドブックを参考に分類を決め町内すべての学校が同じ環境になったことで新採者や転任者への相互支援体制が整ったという内容でした。

**分科会Ⅱ 小松**

「つながる。高めあう。広めあう。」小松市学校事務研究会として、共同学校事務室を考える

～1人1人が共同学校事務室について理解を深め見えてきた、これからの研究会に必要不可欠な「つながり」。課題解決・業務改善をすすめるための共同学校事務室をめざして～

子どもたちの豊かな育ち(ウェルビーイングな状態)を学校事務職員の役割(教育条件整備と情報処理機能)で支援していくにあたって、「共同学校事務室」が有効であると考え、その内容と設置に向けた取り組みの発表でした。野々市市の共同実施報告を聞き、導入された際に取り組んでみたいことを考えたことで共同学校事務室に対する期待を感じることができた。その一方で教育委員会との連携やまわりの理解など課題もあり、今後は事務職員の役割を自ら発信し、共同してできることを増やしていくことで次のステップにつなげていくという内容でした。途中 Microsoft Forms を使用してリアルタイムでアンケートを集計する場面があり、GIGA スクール構想への対応にも事務職員として貢献しているであろう様子がうかがえ、気が引き締まる思いでした。



講演会

「教育の質を高める共同学校事務室の可能性」

文部科学省 国立教育政策研究所

初等中等教育研究部長

教育データサイエンスセンター副センター長 藤原 文雄氏

(1)学校成果につながる学校事務職員の役立ち方

(2) 学校事務職員のキャリアステージに対応した実践

(3)教育の質を高める共同学校事務室の可能性

以上3本のテーマで講演いただきました。

何を目指して頑張るのか。今注目されているのはウェルビーイング(Well-being)の理念の実現。学校は子どもたちの今の幸せと未来の幸せに向けて貢献できる場であり、そのために学校にいる。など、何を実現するために学校にいるのかを今一度再確認することができました。

また、「知識」とはモノがより見えるようになるレンズのようなものである。事務職員が比較的弱い「教育系・学校運営系」の知識を修得すれば、より深く学校経営に参画できるとも話されました。

共同学校事務室の在り方に関しては、影響を及ぼす要因について各種データを基に解説され、今後の可能性やどうあるべきかについて大変参考になる講演会でした。



研究委員会報告

「第17次研究委員会」の活動経過について

第17次研究委員会は学校を取り巻く現状の変化に対する解決策としてテーマを「新しい学校事務の構築」に設定。「コミュニティスクール」や「共同学校事務室」の機能、「各地区の研究会」の組織力を生かし、時代の変化に対応した学校地域とともにある、これからの石川の学校事務を構築したいと考えている。

1.これからの事務について(新しい学校事務) ①これからの事務と職務標準表

「更新される仕事」と「変わらない仕事」、両方を兼ね備えたこれからの学校事務の職務標準表(未来予想図)の完成。未来予想図を基に行動指針を作成。同時に、職務標準表とは違った観点での分析も行い、未来に向けて必要な知識・能力を探る。

②これからの事務をともに考える
校務支援システム(C4th)

2. 課題解決のための制度の利点（学校・地域）

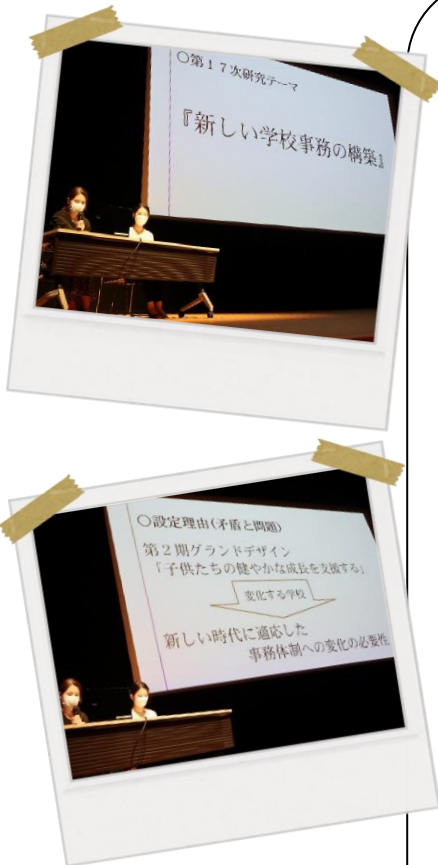
①共同学校事務室

地域の現状とありたい姿に近づくために今できることは何かを話し合い、実際に共同学校事務室を体験、何ができるか考える

②コミュニティスクール

石川県における導入状況とその形態を知る

これからの事務について、今後の研究委員会報告に期待が高まる内容でした。





研究大会に参加した皆さんは、新たなチャレンジ！力強く踏み出すことができましたか？

研究大会アンケートの詳細な結果やご意見は Web ページ（会員専用ページ）からご覧下さい。

さて、3年ぶりに開催された研究大会という事もあって令和2，3年度採用の事務職員は初めて研究大会に参加しました。3人に感想を聞きました。

今回、初めて石川県の事務研究大会に参加しました。

分科会の発表では、各市町の取組みを具体的に知ることができました。

共同学校事務室について、今までぼんやりとしたイメージしか持っていなかったけれど、各分科会の発表や講演会を聞いて共同学校事務室の実態やメリット・デメリットを知ることができ、以前よりはっきりとしたイメージを持てるようになりました。

今回の研究大会で学んだことで、自分でも取り組みそうなことを実践してみようという意欲が湧いてきました。

（能登町 R2年度採用）

学校事務3年目になりますが、コロナ禍の採用だったため初めての大会参加でした。他市からもたくさんの事務職員の方が参加していて、いつもは一人職だけど、こんなにたくさん同じ仕事をしている人がいるのだと知り、なぜかとても安心しました。

大会では各市町がいろいろな方法で業務改善に取り組んでいることを知りました。日々の仕事をこなしながらも、どうすればよくなるか、改善できるか、を考えながら仕事をしていくことが大切だと感じました。

（小松市 R2年度採用）

今回の事務研究大会では、今後の事務としての在り方を考えさせられました。

共同学校事務室の発足や事務職員としての校務の遂行、効率化、学校運営に携わるためのマネジメント力の養成など、今まで自分が考えていた「事務作業をこなす職員」という役割から「事務校務をつかさどる職員」という、より学校経営に積極的な姿を求められてきているということがわかりました。

一学校職員として、今後ますます事務職員の在り方は重要になってくるのだろうと感じることのできる研修でした。

（かほく市 R3年度採用）



お忙しい中感想をくださり、ありがとうございました。今までとは違った新しい事務職員の姿を描くことができたようですね。

今後のご活躍をお祈りいたします。